

平成26年9月4日

ロータリーの親睦と奉仕

9月は新世代のための月間ですので、本日は、青少年奉仕委員会担当のクラブフォーラムなっています。清水委員長 よろしくお祈りします。

天気は、9月に入ってもぱっとしませんが、夜には鈴虫が鳴いており、朝方は夏布団では寒いくらいになりました。風邪を引かないようにご注意下さい。

本日はロータリーの親睦と奉仕についての話をしたいと思います。

ロータリーの二本柱として、ほとんどのロータリアンは「親睦と奉仕」をあげます。親睦と奉仕がロータリーライフを支える二本の大きな柱であることは、疑いのない事実です。親睦が失われれば、クラブは崩壊するであろうし、奉仕こそロータリー運動の目的であります。

ロータリークラブは、数多くの奉仕活動を経験していますが、本来は寄付団体でも慈善団体でもありません。

ロータリークラブは、多くの友人を作り、会員相互の親睦を第一義とした団体です。異業種交流の場でもあります。心の許せる友と語り合い、学びあい、信頼を深め、職業に有益な情報を交換するのです。

そして、善意あふれる会員相互の親睦と信頼は高揚し、親睦活動を通して生まれたエネルギーは、世のため、人のためへの奉仕の心を芽生えさせ、奉仕の心の実践へと広がります。

ガイ・ガンデカーは次のように述べています。「しばしばロータリアンで、親睦を図ることがロータリー運動の全てであるように誤解される。また、ゆるぎない親睦こそ、ロータリーが存続する絶対条件だと考えているクラブもある。しかし、これらの二つの立場からの判断には、明らかに批判の余地がある。親睦はロータリー運動そのものではなく、ロータリーという植物が、根をはり、成長するためにどうしても必要な最上の土壌なのである」。

会員が親睦を深め合うことは当たり前のことであって、親睦は目的ではないんだ、ロータリーの目的は、世のため人のために何か良いことをすること、いわゆる「奉仕」することが大切なんだということだと思います。

親睦を深めるということは、会員同士の心と心を通い合わせて、他人への思いやりを深く持つということです。他人は思いやりをかけてもらおうと、思いやりをかけ

てくれた人に対し好意を持ち、次に自然と、その人に思いやりをお返しすることを考えます。それが「親睦」というのではないのでしょうか。

それでは思いやりとは何でしょうか。思いやりとは「奉仕の心」と言えるのではないのでしょうか。このように考えると「親睦即ち奉仕の心の形成」と言ってもいいのではないかと思います。

クラブの例会で、他の会員から自分の足りないところを謙虚に学び、自分を高めていく、その過程で、会員同士が親睦を深め合う。この親睦を深め合うということが、「奉仕の心」を育むということになり、その育まれた奉仕の心を持って、奉仕の実践をするのが、本来のロータリーではないのでしょうか。

100年以上も前、ポール・ハリスは、奉仕は親睦の上にある、高い次元のものであると考えました。しかし、ある時、このことの間違いに気づき、「ロータリーは、親睦と奉仕の調和の中に宿る」と言っています。私たちは、このことを思い出し、今こそ、我々ロータリーにとって、「親睦」と「奉仕」が同じように、大切なものであるということを考える必要があるのではないのでしょうか。